

2021年度事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

特定非営利活動法人てのひら

1、事業報告

コロナ禍に翻弄されながら、さまざまな制約の中で、高齢者の方々を支援してまいりました。これまでと同様、基本理念として掲げる、高齢者の方々を敬愛し、共感と受容と尊重の中で、周りの人々との縁^{えにし}を大切にし、残された大切な生涯を安心して歩むことができるよう支援するという思いを持ち続けてきました。

(1) デイサービス事業

前年同様、コロナ禍のため、ボランティアの方々には休んでいただき、職員のみでのデイサービスを展開いたしました。空気清浄機、パーテーションの設置、消毒、マスクの生活が続きました。ご利用者様の迎え時の検温、来所時の手洗い、消毒、食事以外はマスク着用と、普段とは違うデイサービスで、不安な気持ちを抱えることがないように接してきました。そして、一日を安心して過ごすことができるように、また、心身のバランスがとれることを配慮しながら、これまで通り、脳トレーニング、手指のリハビリ、理学療法士による身体のリハビリを行ってきました。このように、私たちは、ご利用者様が、要介護状態になっても可能な限り在宅生活が続くことを願い、ご利用者様の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持、ご家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることに努めてきました。

低栄養の防止のため、バランスのとれた食事（たっぷりの新鮮な野菜、豊富な食材を使い、目で楽しむ、食べておいしい食事）を提供してきました。食前は唾液の分泌を促し、嚥下を良くするため口腔体操を行い、食後は口腔内の保清に務めるという介護の基本をしっかりと継続してきました。

しかし、ご利用者様の減少が続きました。当日になってからのキャンセルに行政は1日分の介護保険料の実費をとればよいといいますが、そんなことはどこの事業所もやっていません。特にこのコロナ禍ではなおさらです。

結局、決算では、赤字が出てしまったこと年度となりました。

(2) 居宅介護支援事業（ケアプラン作成、相談業務）

最期まで在宅での生活ができるように、ご利用者の方の意思を尊重しつつ、家族の介護負担が軽減するよう、ケアプランを作成し、ご利用者とご家族と介護事業所との調整を行うことを基本としています。

ご依頼があれば、迅速に、ご相談にはしっかりと耳を傾け、丁寧に対応し、中立的な立場に立って、事業所の紹介なども行ってきました。また、医療・介護との連携を強め、利用者の方の退院・退所時における主治医等の助言を得つつ、必要な情報を反映したケアプランを作成してきました。

しかし、在宅での家族の介護負担には、はかりしれないものがあり、結局は、重度になれば施設にという流れの中、要介護者のケアプラン数の減少は進む一方で、要支援者のプランが増えるという、収入面の減収の半面、仕事量は変わらずといった状態が続きました。

(3) サービス付き高齢者住宅グループリビング

住人の方々も介護保険の対象者が過半数を占める割合となりました。ボランティアの方々の協力を得て、夕食時の体制もすっかり定着したグループリビングとなっていました。一人からコロナ陽性が判明し、結局3名が罹患。コロナ禍の日々、ボランティアを休んでいただき、住人は部屋での個々の食事体系となりました。

共用部分についてはアルコール消毒を行いました。スタンド式の体温計を設置し、手洗い部分、トイレにアルコール、と万全を期して運営に当たりました。

(4) 生きがい対応型デイサービス（市の受託事業）

コロナ禍のため、市の要請で緊急事態宣言下の間は中止、それ以外は必要な対策を講じた中で実施致しました。